

2019年度 総合研究所特別研究員 研究活動報告

氏名	筒井 大祐
研究テーマ	『八幡愚童訓』の生成と展開に関する基礎的研究
研究概要	本研究は、日本文学をはじめ、宗教文化史や歴史学などの学問分野を超えて研究対象となっている、八幡信仰の基礎資料である『八幡愚童訓』のテキスト研究を行うものである。『八幡愚童訓』の関連資料や内容分析を通して、その生成と展開の解明を目的とする。

1. 研究活動の概要と研究成果	今年度も引き続き、研究課題である『八幡愚童訓』の基礎的研究を進めるために、伝本調査や関連資料の収集を行った。伝本収集としては、兵庫県洲本市（淡路島）由良湊神社において、神社所蔵の『八幡愚童訓』、八幡縁起絵巻の写真撮影、伝本調査を行った。当地の資料は、中世における『八幡愚童訓』、八幡縁起絵巻の伝播のあり方を考察する上で貴重な遺例である。また奈良県吉野郡に所在する龍門文庫において、関連資料の調査も行った。その他、研究活動を通して得た知見を基に、『京都語文』第27号所収の熊本県藤崎八幡宮所蔵の「細川家奉納八幡縁起絵巻」の略解題を執筆した。また、これまでの研究成果の一端を、佛教大学四条センター・放課後の文学教室「八幡縁起絵巻の世界」にて講演した。
2. 学術論文・学会発表等	① 資料紹介：「藤崎八幡宮細川家奉納本八幡縁起絵巻 上巻：影印、翻刻」、『京都語文』第27号、共著、佛教大学国語国文学会（2019年11月30日）。 ② 公開講座：佛教大学四条センター・放課後の文学教室「八幡縁起絵巻の世界」（2019年7月31日）。
3. 競争的資金等への応募と採択	研究課題「『八幡愚童訓』の生成と展開に関する基礎的研究」、科研費（若手研究）18K12300、研究期間2018年4月-2022年3月。
4. 今後の課題	研究課題である「『八幡愚童訓』の生成と展開に関する基礎的研究」を進めるために、さらなる伝本の収集や、関連資料の検討などを行い、本研究課題に取り組んでいきたい。それらの資料を基に、中世文学における『八幡愚童訓』の影響を手がかりとして、八幡信仰に関する文学資料のあり方を考察したい。